

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1270300534 | | |
| 法人名 | 株式会社メデカジャパン | | |
| 事業所名 | いなげケアセンターそよ風 (のぞみユニット) | | |
| 所在地 | 千葉県稲毛区穴川3-6-12 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年11月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年1月19日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所 |
| 所在地 | 千葉県中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階 |
| 訪問調査日 | 平成21年11月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| 個別対応の実践と四季折々の行事を取り入れ、季節感を感じて頂ける様実践しています。人として生きがいの持てる毎日を、過ごして頂ける様取り組んでいます。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 平成16年3月開設の、3ユニットを持つホームである。同法人経営のデイサービスとショ-トステイが併設され、支え合う関係にある。地域の人々とは、散歩や買い物を通じて挨拶や話をする関係である。ホームが秋に開催する感謝祭は、近隣住民と入居者との交流の場となっている。町の自治会にも加入し、地域行事にも積極的に参加している。居住空間は、十分な広さがあり、ユニット毎の個性をいかした設えは、清潔で明るく居心地が良い。ターミナルケアの要望が多いため、近年力を入れている。医師、訪問看護師等、関係者と連携し、ターミナルの説明書書と同意書の備えも出来ている。実績も複数例ある。 |
|---|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

自己評価(のぞみユニット)および外部評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念、グループホーム理念、ユニット理念を、毎朝唱和し理念に添って散歩時等、地域の方へは笑顔と挨拶を行っている。 | 3つのユニットがそれぞれの理念を持っている。笑顔や活気などの言葉を使い、明るさを大切にする理念である。朝礼の後唱和し、職員間で共有され、日々のケアの中で活かされている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 周年感謝祭には地域の方々に参加して頂き交流を深めている。又夏祭り区民祭り等地域の行事には、積極的に参加している。 | 散歩や買い物を通して、近隣の人々と交流している。地域から行事案内を頂く事もあり、積極的に参加している。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議では、地域の方々に参加して頂きユニットの情報を伝え、センターで行われている研修内容も紹介している。又、入所ご希望の方からの相談も傾聴し助言を行っている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事、近況、事故報告等、各ユニットから報告し家族や地域の方々から出された意見は、真摯に受け止め、改善すべき物はすぐに改善し取り組んでいる。 | 運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。内容はホームの状況報告、入居者や家族との意見交換など。今年度は入居者が散歩する時の、ボランティア協力を課題としている。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 2ヶ月に一度の運営推進会議には、民生委員、あんしんケアセンターの方に出席頂き、情報を共有している。又グループ連絡会、介護相談員との意見交換会にも出席し、意見を交換し要望等も伝えている。 | 市の指導課を訪問する際、管理者が、運営推進会議の議事録を持参し、課題に対して意見と協力を仰いでいる。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止への取り組みについて、内外の勉強会に参加。資料は全職員に回覧し、日々のケアの中に取り入れ、全体で取り組んでいる。 | ベランダに繋がる外階段は日中施錠していない。入居者がベランダに出る時は職員が付添う。声掛けは入居者の行動を阻まないよう注意している。1階玄関に下りるエレベータは暗証番号キー使用となっている。 | グループホームがあるのは3階・4階なので、入居者の自由な外出を阻むことがないように、引き続き配慮が期待される。 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内外の研修、又、自己学習に於いても学び朝礼時に唱和。ミーティングの議題としても話し合い取り組んでいる。 | | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 身体拘束廃止、権利擁護研修に随時応募参加し参加した職員は、ミーティングで情報を共有している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、解約時は、長い時間を掛け利用者又ご家族様が納得して頂ける様、細かな事まで説明し納得して頂いている。改定時は説明会を開き家族が納得できる様図っている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヶ月に一度の運営推進会議では、必ずご家族様に意見を聞いている。その結果様々な意見が出、できる限り対処する様になっている。月に一度介護相談員も来所している。毎月の近況報告にも相談窓口をお知らせしている。 | 職員は日頃から入居者の思いを汲みとる努力をしている。入居者、家族の意見・要望等には、速やかに対応するよう心掛け、運営に活かす取り組みをしている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティングでは職員が意見を言いやすい環境作りをしている。又、常勤以上の職員も3カ月に一度センター全体会議に参加し、運営に関する情報共有を図っている。 | ユニットごとのミーティングが、職員の意見交換の場となっている。職員の意見は、運営推進会議の議題にも取り上げられている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 正職員は定期的に考査表に基づいた面接を行い自己の実績取組み等を明示。契約・パート職員も更新時に面接し、日頃の勤務状況により給与の見直し、又、思い等を聞く機会を設けている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は内外の研修の確保推進を考え、市やその他の研修の応募、声掛けを行い職員のスキルアップを図っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市で開催する意見交換会、又、グループホーム連絡会に出席し、他事業所の方々と意見交換し他施設の取り組みを学ぶ機会をもち、サービスの質の向上を図っている。 | | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|--|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前には家庭訪問や面談を行い、心身の状態や十分に自らの意見が話せる様、傾聴に努めている。 | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホームを見学して頂き、現在の状況を詳しくお聞きして、必要な情報を提供しながら信頼関係を築ける様にしている。 | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現在の状況をお聞きした上で、必要であればデイサービスやショートサービスの利用を提案し、情報提供を行っている。 | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活の中で、できること、できないことを見極め得意分野を担い、人の役に立っているという満足感を得、支え合えるように支援している。 | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 生活状況をこまめに連絡し変化の応じてカンファレンスを開き、共に本人を支えているという意識を持って頂けるようにしている。 | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人がいつでも面会に来られるような雰囲気作り、馴染みの場所への外出、話題を投げかけるよう支援している。 | かつて勤めていた職場の後輩が、定期的にホームを訪問し、懇談している入居者がいる。職員が入居者と散歩する時には、馴染みだった場所に行き、当時の話を聞くなどしている。 |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日によって状態が変化する事もあるので、職員間で情報を共有し、場合によっては間に入り利用者同士の関係が円滑になるように努めている。 | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された後も様子を観に伺っている。年賀状も送り関係を継続させている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりのなかで本人の言葉に耳を傾け表情を読み取り、思いを汲み取るように努めている。 | 入居者の意向や希望は、個別記録や職員連絡帳に記録している。また入居者の表情からくみ取った思いなどは、申し送り時に伝え合い、職員間の情報共有を丁寧に行っている。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用前には、本人・家族から充分情報を貰い、利用後も本人・家族からの会話の中で情報収集に努めている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活機能の把握を行い、出来ることをやって頂く様支援。その日の状態に合わせたきめ細かな対応を心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のモニタリングで計画に添ったケアが出来ているか、課題があれば、ミーティング、家族を交えてのカンファレンスを実施し、計画に反映させている。 | 日々のミーティングで入居者の思いや家族の意見・要望を共有し、介護計画に反映させている。家族からのアセスメントでは、好みなども丁寧に聞いて、本人本位の介護計画になるよう努めている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ヒヤリハットノートの活用と、日々の状況や気づきを個々のケース記録に記入し情報を共有し、ミーティングで話し合ったことを全職員統一する様図っている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院や送迎、行きたい場所への外出等、利用者中心のニーズに合わせて柔軟に対応している。 | | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事には必ず参加し、近所への買い物や近隣のレストランへも良く足を運んでいる。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望により月2回の往診体制導入、又、内科以外もご家族・本人の希望の医療機関を受診。やむを得ない場合については事前に了解を頂いている。 | 入居者本人のかかりつけ医を優先し、家族が付き添えない場合は、職員が送迎・付き添いの支援をしている。提携病院による定期的な往診の他、検診車による健康診断も実施している。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | センター常駐の看護師に特変事は報告し、助言を受けている。又、看護師も気にかけてくれている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には細まめに顔を出し、Dr、NSと情報交換、又、ご家族とDrとの話し合いの場にも立ち会っている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階からかかりつけ医と家族、管理者はグループホームに於ける医療行為について、十分に話し合い希望に添える様、終末期の方針に向け確認を行っている。 | 提携病院、かかりつけ医、訪問看護などとの連携のもとターミナルケアを実施し、グループホームでの看取りも行っている。重度化した入居者のいる場合は、夜間の職員体制を強化して支援している。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ブロック会議での勉強会や、センター全体で消防署との連携による応急手当を身につける機会を作り、全ての職員が対応できる様にしている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立会による避難訓練、センター全体、又、グループ独自の避難訓練も行い、全ての利用者様の避難方法を訓練している。又、運営推進会議では地域の皆様に事業所内の備蓄品についても伝え相互の協力体制を築いている。 | ビルの同法人他サービスと合同あるいはホーム単独で、定期的に避難訓練している。夜間想定もあり、入居者も参加である。消防署の指導で車いすでの避難も練習している。井戸があり水は確保できている。 | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室に入る際は必ず声掛けし了解を得た後入室することを義務づけ、意志の疎通の図れない方にも、暖かい言葉掛けを徹底し、トイレの声掛けも他者に聞こえない様配慮。人生の先輩であることを念頭に置いている。 | 適切な言葉使いの例を見やすい場所に掲げ、入居者の人格を尊重した言葉かけになるよう、職員全体で気をつけている。画一的な対応ではなく、入居者一人ひとりに合わせ臨機応変に接するよう心がけている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 10時のお茶はお好みで選んで頂き、着替えの洋服も出来る限り、ご希望を伺っている。又、外食する時もご本人のお好きな物を選んで頂いたり、会話の中からも思いを汲み取る言葉掛けをしている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個別対応で回転寿司に行ったり、デパートに行ったりと、希望を伺いながら、日々の暮らしが充実するよう取り組んでいる。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出行事にはよそ行きに着替え、お化粧品等おしゃれ心を忘れない様支援。ご家族からお好みの色を聞き、希望を表わせない方のおしゃれにも配慮している。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員・利用者が毎日同じテーブルを囲み、会話しながら食事を摂っている。又、彼岸のおはぎ作りお弁当作り、餃子作り等ADLに合わせなるべく 皆んなで作り上げる機会を多く取り入れている。 | 法人の管理栄養士のたてた献立をもとに、時には入居者の希望に合わせてメニューを変えたり、出前による食事も楽しんでいる。入居者はそれぞれ自分のできる範囲で調理や片づけに参加している。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせて、おかゆ・刻み等配慮し、食事・水分の摂れない方には、お好みの物で代用したり、必ず水分・食事量の確保に努めている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケア実施。義歯の方は毎回外して洗っている。又、就寝前は洗浄剤を使用している。 | | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターン把握のため、2時間毎のトイレ誘導を実施。一人ひとりのパターン結果に基づき、失敗する前のトイレ誘導を心掛け、トイレでの排泄を支援している。 | パターン把握のため、1週間、2時間ごとにトイレ誘導し、排泄チェックを実施した。そのデータをもとに、入居者個別の排泄支援をしている。夜間もできるだけトイレで排泄できるよう誘導・介助している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自然排便を促すため、食生活に乳製品、プルーン等を多く摂り入れている。水分の摂れない方にはお好みの物(果物等)で補充。散歩も日課としている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回は必ず入浴して貰うようにしている。 | 週3回の入浴を基本に、希望があればそれ以外の日も対応する。入浴時間は午前10時から午後4時の間で、希望に合わせて入浴できる。ゆず湯や入浴剤など、楽しく入浴できるような工夫もしている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝前の足浴実施と軟膏の塗布、又、温かい飲み物の提供と、暖かい声掛けを心掛けている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 配役表には薬の効能を記入し全職員が把握できる様にしている。又、薬が変わった時は細かく観察し変化を記録情報を共有している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりが特技趣味を活かせる場面を多く設け、洗濯物干し・たたみ・掃除・調理等、生活感ある毎日を過ごして頂ける様、又、レクリエーションも毎日行っている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出がお好きな方のために、毎日散歩は行っている。又、個別で買い物、外出等積極的に取り入れている。 | 毎日、近隣や神社を30～40分かけて散歩している。コンビニへの買い物は随時職員が1対1で対応する。近くのスーパーへ車で出かけた後、カラオケ、外食、地域のお祭りに出かけることもある。3ユニット合同で寿司屋や千葉駅伝の応援にも出かけた。 | |

いなげケアセンターそよ風(のぞみユニット)および評価結果(3ユニット全体)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物に行った際はレベルに応じ、支払をして頂く様支援している。又、職員に心づけを下さる御利用者様からのお金はお礼を言っ後でそっと返している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様からの贈り物が届いた時、ご本人様の希望により、お礼の電話を掛けたりと支援している。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 四季折々の飾りつけをし、行事やお誕生日の写真など、ご利用者様と共に掲示し暖かさを出す様工夫している。 | 広々として明るいリビングルームは、入居者の手作りの作品や写真をはじめ、季節を感じさせる飾りつけにより温かい空間づくりがなされている。建物の1階には中庭や多目的室があり、交流の場になっている。入居者が育てる草花が置かれた広いベランダではお茶を楽しむこともある。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングには皆様が座ってくつろげる様ソファーを配置。和室には冬はコタツや座椅子を置き、昔ながらの雰囲気作りに配慮している。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が自宅で利用されていた、タンス・イスなど馴染みの物を持って来て頂き、お子様やお孫様の写真を飾り、慣れ親しんだ雰囲気を再現し安心して過ごせる様工夫をしている。 | ベッドやタンス、カーテンをはじめ入居者の馴染みのもの、使い慣れたもの、好みのものが置かれ、それぞれ居心地のよい居室となっている。畳を敷いて布団で寝ている人もいる。各居室の入口には入居者の笑顔の写真や紹介文が飾られている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴室・トイレ・フロアには必ず手摺をつけ、安全で自立に向け支援している。又、トイレ・お風呂などわかり易い様に名札を示している。 | | |